

JTU 東北ブロック協議会理事会

議事録

日時：平成29年3月4日（土）

11:30～17:30

場所：ホテル白萩（宮城県仙台市）

《座談会》 11:30～13:30

●「日本をリードする東北ブロック協議会を目指して」

司会：大関理事長

出席者：蒲生会長、森崎顧問、小林副会長、吉田前事務局長、高橋副理事長、

ゲスト：深沢様（山形県協会）

他：理事16名

会談内容は後日東北ブロックHPにて公開予定

撮影、収録：平山元

また、2年後の25周年の記念誌作成のメインに掲載する意向。

《理事会》 14:00～15:45

・出席者：24名

蒲生光男：会長
森崎俊紘：顧問
小林格也：顧問
大関辰郎：理事長
高橋伊万夫：副理事長
磯崎洋一：副理事長
穂崎一豊：副理事長
古桑 整：副理事長
青山栄市：副理事長

理事	
小出 寛	栗津俊一
木幡智彦	加藤 寿
辻 正美	朝川洋明
吉田勝彦	三馬博史
高橋英絵	中元靖貴
阿部憲悦	長山真理
和泉秀一	塩沼淳一

ゲスト
前JTU会長：岩城光英

進行：大関理事長

1、挨拶：岩城光英（前JTU会長・JTU理事）

リオのオリンピックを振り返ると、トライアスロンに於いては、残念ながらパラリンピックの秦さんの入賞にとどまりましたが、トライアスロン人気はドンドンたかまっており2020年の東京オリンピックには確かな手ごたえを感じています。是非メダルを取る体制を構築して頂き、この東北の地からトライアスロンの波を起こしていただきたい、この会

議を意義あるものとして一丸となって頑張ってもらいたい旨を言われた。

2、黙祷

東日本大震災で亡くなられた方々・小林大哲（自転車事故死）の冥福を祈り黙祷をささげられた

3、開会の挨拶：蒲生会長

4、事故報告：森崎顧問

ここ1～2か月の間に小林大哲の事故以来、他にも2件、これまでなかった自転車事故が続いています、これを教訓に各大会またトレーニング等十分に安全に配慮し、心掛けて頂きたい旨を伝えられた。

5、2017年度：大関新理事長挨拶

①～⑫までの事項を列挙示された。（資料添付）

- ① トライアスロン協議の普及→PRの強化、HPの充実と活用、大会数の増加→新大会を作る。
- ② 会員の増強 トライアスリート、ジュニア、ファン→大会を見てもらうこと
- ③ 協力者を巻き込むこと→トライアスロンムーブメントにつなげる（国体での岩手県協会の取組例参考）
- ④ 安心、安全、そして非日常的な会場作り 運営、審判技術の向上→スイム事故ゼロ運動と安全ガイドラインの作成。他の大会運営の視察と審判との交流
- ⑤ 大会ごとの協力と競争→復興支援需要は間もなく終わる。選手が大会を選ぶ時代に入りる。特色あふれる大会作りの必要性
- ⑥ 大会で利益を出す構造改革→トライアスロンスポーツの産業化
- ⑦ ブロック組織の強化と実行力の強化
- ⑧ ブロック財源の拡充と強化（6県協会費のアップ）
- ⑨ ブロック記念誌の発行（創立25周年 2019年）
- ⑩ 副理事長の責任担当業務の明確化、事務局体制の強化
- ⑪ 地域社会への貢献 地域振興→地域イメージ、経済、環境など
- ⑫ 会員への貢献「アスリートファースト」策

上記、項目事項を行っていく方針を言われた。

各副理事長・常任理事・理事の方々は、交流、親睦をはかり活動して頂きたい。特に副理事長職に至っては担当職務を具体的に方策・検討しスケジュール化していくことを言われた。特に⑤について現在トライアスロンムーブメントの中、これからは、大会ごとの競争の時代に入ります。選手やファンから選ばれる東北ブロックの各大会にしていきたい。

それから、各役職・各担当が紹介された。（資料添付）

6、各大会（認定記録会）の確認

2017東北ブロック大会事業計画（添付書類）の日程・名称等の確認が行われた。

訂正・変更・追加事項の各大会・認定記録会等は「3月13日付メール」にて送付済。

「2017東北ブロック大会事業計画」は随時更新され、東北ブロックのHPにて掲載してゆくことを確認された。また東北ブロックHPの重要な掲載事項については

*各県協会→事務局→磯崎副理事：理事長の確認→HP掲載（木幡事業広報委員）という経緯を経ることを確認。（詳細な問い合わせ等は各県協会に直通で行う）

<新大会・釜石復活大会>

- ・岩手県 9月3日：第23回釜石はまゆり国際大会の復活、JTU登録義務化、スプリント。リレー部門を新設
- ・山形県 5月27, 28日寒河江トライアスロンフェスティバル、JTU登録義務化、パラトライアスロン、ミックスリレー、アクアスロン予定、(サーキット第1戦予定) 認定記録会、初級指導者講習会の開催を予定、

◎蒲生会長・大関理事長より

サーキット第1戦を掲げているが、時期尚早ではないかとの意見がありました。また大会をサーキット戦と認定するのは大会側申告ではなく、東北ブロック協議会側が認定するのが本筋であるとの意見が出された。(その結果等により後日さがえトライアスロンサーキット第1戦は今回は見送りされる。)

また、サーキット戦に関わらず「東北での各大会・認定記録会の開催予定等」を各大会のパンフレット(大会案内書)に掲載していく方向で一致した。

7、大会参加費免除規定：穂崎副理事長

- ・東北各県のJTU登録会員・学連登録されている選手に限る。
- ・東北ブロックのサーキットシリーズに加入登録している大会(今期は第1戦～10戦まで)が対象大会となる。

第1戦から最後のサーキット戦(今期：11月デュアスロンINいわき)までを終え、その年度のすべての大会を終了した時点で算出して、集計を済ませ各県協会にそれぞれの表彰選手(学連含む)の表彰状を速やかに送るよう努める。

各県協会の総会等で事前に集計等が知りたい各県協会はサーキット担当(穂崎氏)に直接連絡を取ってもらうことになるとの事。参加費免除の選手に関しては、この3月に開催される：会員報告会時にその集計された結果を発表し規定にしたがい優勝者から優先順に東北で開かれるサーキット大会を選んで出場することが出来る。(各大会3枠あり)また認定記録会に於いては順次ということになります旨を言われた。

その配布された書類の中に「6、大会の申し込みの流れ「1週間以内に選定」とあるが、各県協会からもう少し猶予をもうけられないか？この期間中の選定は難しいとの意見がでる。前会議でも取り上げられたが、今回、強化委員長欠席のため再び保留となり、事務局より強化委員長に伝えることとなる。

8、トライアスロンアカデミー福島への報告

「2016 NPO 法人わ トライアスロンアカデミー福島 活動報告」資料配布される。東北6県の強化育成拠点として認定されていることをアピールされた、また全国でも第3番目のレベルを誇り、JTUからも認められている指導的立場にあるとのこと、現在は場

所柄どうしても福島の選手が多い状態であるが、昨年のように国体に向けて合同合宿等、東北のレベル向上に大いに貢献していく方向で頑張りたい旨を言われました。また10万円5000の協力金の依頼の旨も言われました。

9、危機管理：スイム事故（中元理事）

仙台七ヶ浜大会を基本にガイドラインは作成してほぼ出来上がっているが、現在JTUサイドで新たな危機管理ガイドラインを作成している状態で近日中に出来上がる予定をしていることを聞いているので、待っている状態である。①外的要因（バトル等）②内的要因（持病等）③自信過剰（虚言等）参加事故等、具体的な要因を上げられた、監視体制ばかりでもないことを言われ、総合確率論的などこともあることもいわれた、大関理事長より、東北ブロックとしてのガイドラインでもいいのでお願いしたい旨も言われた。

10、パラトラ・ITUルール変更について（木幡理事）

資料配布：パラ・ITUルール変更に関しては、JTU社員に配布した資料を皆さんにも見て頂いています。この資料はエンドではなく常に変更があるものと思って頂きたい。例えばエイジ部門ではあるが、去年はディスクブレーキの禁止・今年は許可という具合に常に変化していますので、ルール変更には注視して頂きたい旨を言われ、またローカルルールとの兼ね合いもあることを言及されました。

11、会則の変更

昨年11月に開かれました報告会において、2017年度の大関新理事長による新役職、新役職名の変更が加えられ人員の増幅・変更が行われました理事会にてすでに承認を頂きましたが、東北ブロック会則は変更前の状況でありました。その変更の箇所は項目多岐にわたるため事務局よりメールにて後日添付することになる。

また大関理事長より11月に行われる「報告会」という名称も「総会」に変更したい意向を示され同時に変更されることになる。

次回報告会は山形で行われます。

以上